

磯辺地区の学校適正配置

磯辺第一小学校・磯辺第二小学校・磯辺第四小学校・磯辺第一中学校 合同保護者対象説明会報告

1 日時・会場

平成21年4月25日（土） 午前10時～12時
磯辺第一中学校体育館

2 参加者

磯辺第三小学校保護者・磯辺第二中学校保護者等 約50人
教育総務部企画課職員 5人

3 概要

(1) 教育委員会挨拶

本日の説明会の趣旨等について

磯辺地区では平成20年2月に地元代表協議会を設置し、昨年度末までに合計7回の協議会を開催し、子どもたちのより良い教育環境をいかにすべきかとの高い見地に立って、真剣な議論を重ねていただいた。

第7回の協議会では、これまでの協議内容について、保護者に正確な情報を伝え、質問に回答するとともに、意見収集をして来年度の協議会につなげるため、教育委員会が各保護者会と調整のうえ、保護者対象の説明会を開くことが決定した。

本日は、この決定を受けて、磯辺第一小学校・磯辺第二小学校、磯辺第四小学校磯辺第一中学校合同の保護者対象説明会を開催させて頂いた。

(2) 職員紹介

(3) これまでの「磯辺地区学校適正配置地元代表協議会」の協議経過等について説明

- ア 期待される効果と学級編成および少人数指導について
- イ 統合に伴う教育環境整備について
- ウ 参考シミュレーション等について
- エ 主な質問・意見に対する回答について

(4) 質疑応答 ※主な質問・意見(Q)と回答(A)

Q 資料には平成26年度のシミュレーションが提示されているが、どうして平成26年度なのか。統合する時期が平成26年度ということか。

A 現時点で推計できる最も遠い将来が、0歳の子どもたちが小学校に入学する平成26年度である。決して統合時期が平成26年度ということではない。磯辺地区の地元代表協議会においては、小・中学校の適正配置の方向性について協議中であり、統合時期については、適正配置の方向性がまとまった後の、協議課題となるだろう。まずは、適正配置の必要性について協議することが優先であり、拙速には行えない。統合の順序については、児童・生徒が小・中学校において統合を2回経験することを避けた方が良いという意見がある。そのための方法としては、四つある。一つは、中学校を先に統合すること。二つは、小学校と中学校を同時に統合すること。三つは、小学校を統合した1年後に中学校を統合すること。(1年後には中学校が統合校になっている。)四つは、小学校を統合した8年後に中学校を統合することである。(統合時の小学校2年生が中学校を卒業した後になる。)

Q 磯辺第一小学校脇の野球場は磯辺第一小学校の学区であるのに、なぜ磯辺三小学校に受け入れるのか。建設計画がもう予定されているのか。

A 磯辺第一小学校脇の企業庁所有地については、平成22年度末まで千葉市が借用し、その後企業庁が使い道を検討することになるので、現在は、開発があるかどうか分からない。仮に開発があったとしても、大規模なものにならないければ磯辺第一小学校との統合校でも受け入れることはできる。大規模なマンションが建てられる可能性は少ないと考えるが、やはりさまざまなケースを考えて見積もらなければならない。仮に大規模なマンション開発が行われ、さらに磯辺第一小学校の跡地にもマンション開発があったとして、発生する児童数を最大に見積もっても磯辺第三小学校を単独で残しておけば受け入れることができる。

Q なぜ、シミュレーションのなかに高浜第二小学校が入っているのか。

A 高浜第二小学校は高浜三丁目、六丁目を学区に含んでおり、現在その地区の児童は磯辺第二中学校に通学している。したがって、高浜第二小学校に関係する保護者と自治会の代表者については高洲・高浜地区と磯辺地区の両方の地元代表協議会に参加してもらっている。

高洲・高浜地区の地元代表協議会では、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合の方向性が考えられており、その場合、統合校の中学校区は高浜中学校となる。高浜第二小学校の保護者会で、保護者の意向をアンケート調査したところ、希望により引き続き、磯辺第二中学校(又は磯辺地区の統合中学校)に通学できるのであれば、高浜第三小学校との統合が妥当であると考えている保護者が70%程であった。なお、高浜6丁目の自治会からは、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合校が開校した場合、それに併せた、磯辺第三小学校への学区変更の希望もある。

Q 地域住民対象に説明会は行うのか。

A 今日の説明会は、第7回磯辺地区地元代表協議会において、これまでの協議経過等を保護者の皆様に正確に伝えるとともに、疑問点に回答し平成21年度の協議会に反映させるために、教育委員会と保護者会の代表が相談のうえ、説明会を開くことが決まり、その決定を踏まえて開催したものである。なお、未就学児の保護者への周知も必要と考え、今日の説明会の開催については地域の保育園や幼稚園にもポスターを掲示して案内した。教育委員会としては、地域や保護者からの要請があれば今後も説明会を行うつもりである。また、地元代表協議会は、学校に関わる様々な団体の代表者から構成されており、代表となった方には、協議会での協議内容を所属する団体へおろし、意見を吸い上げて、それをもとにして次の協議につなげていただくようお願いをしている。

Q この問題は拙速に進めず、議論を尽くしてほしい。

A 拙速に進めないでほしいとの意見は当然である。「実施方針」にも示しているとおおり、本市の学校適正配置事業は合意形成を基本として進めており、子どもたちの教育環境をいかにすべきかとの視点で真剣に議論することが大事だと考えている。

Q 統合された後の学校跡地についてはどうなっていくのか。

A リーフレットにもあるように、跡施設については、子どもたちや地域のためになる活用の仕方について協議していく方針となっている。磯辺第一小学校・磯辺第二小学校・磯辺第四小学校・磯辺第一中学校は、企業庁からの借用地であるので、仮に跡地となった場合は、地元からの要望を踏まえて、所有者の企業庁と改めて協議することになる。そのためにも地元代表協議会からの跡施設利用についての地域や保護者としての要望を出してもらい、それを踏まえて検討していきたい。

Q 再度の統廃合という事態を生まないように、児童数の推計については、今後の開発状況や住民構成も含めて考えた方がいいのではないか。

A 十分に考慮していく。

Q 今後の具体的な進め方についてはどうなっているのか。

A 現段階では、小学校の適正配置については、シミュレーション4をたたき台にして話し合う方向である。また、中学校の適正配置をどうするかが、今年度早々に話し合うべき大きな課題である。推計は毎年更新しているので、今年度は平成27年度までの状況を推計することができるので、その結果を踏まえ、地元代表協議会で十分に協議していただく。協議内容や資料は、協議会の委員がそれぞれの団体に持ち帰り、情報提供をするとともに意見を吸い上げ、それをもとに次の協議会で議論をする。このようなプロセスを通じて、合意形成を目指していきたい。もし、地元代表協議会で小・中学校の適正配置について合意形成ができた場合は、次の段階である統合準備会へと進んでいく。そこでは統合に向けた具体的なスケジュール、校名・校歌・校章・制服等、教育環境整備・安全対策、交流事業、記念行事、閉校式・開校式、新入生への配慮等を具体的に検討していただくことになる。

Q 小学校については、シミュレーション4で決定なのか。

A 今申し上げたとおり、現時点での話し合いのたたき台である。中学校の適正配置の検討状況によっては、シミュレーション4に影響を及ぼすこともあるだろうし、新たなシミュレーションを提示する必要もあるかもしれない。

Q 地元代表協議会と保護者会とを含めた説明や検討の機会はあるのか。

A この説明会もその一環である。今後も情報を共有しながら進めていきたい。今後の地元代表協議会でも十分に時間をとり、協議していきたい。

Q 合意形成に向けて様々な声をできる限り吸い上げてほしい。

A 合意形成に向けて様々な声をできるだけ吸い上げることはたいへん重要なことであり、できるだけ努力をしていきたい。地元代表協議会での協議状況や資料等は、委員を通じて各団体に逐次おろしていただいているが、保護者会によっては、「協議会だより」のようなものを作成したり、時期をとらえてアンケート等を実施したりしているところもある。その際、正確な資料や説明内容にするために、事前に私たち事務局に校正を依頼されるところもある。また、対象地区の小・中学校に、これまでの協議会で提示した資料と議事要旨をすべてファイルで綴じ込み、事務室前等において、自由に閲覧できるようにしている。市のホームページにもすべて掲載しているので活用して欲しい。

Q 中学生にとって、部活動は大きな問題である。磯辺第一中学校には「バスケットボール部がない」ので、開設してもらえるよう色々と話し合ってきたが実現されなかった。今在学している生徒たちが我慢している現状を考えると忍びない。何とかならないのだろうか。市の教育施策として、部活動に力を入れるとのことであるが、現状は厳しい。子どもたちの希望する部活動が開設できるような教育環境を提供できるよう前向きに検討してほしい。

A 資料に示したとおり、磯辺第一中学校も磯辺第二中学校も現状の規模の中でできる限りの部活動を開設し、複数の顧問でそれぞれの部活動を指導している。しかしそれは、先生方が複数の部活動の顧問になるなど努力している結果であるし、生徒数に限界があるので、団体競技の部活動を多数開設すれば、活動がしづらくなることも確かである。

今のご意見は大変貴重なものと受け止めている。学校規模の適正化により、子どもたちが希望する部活動を選択できるような環境づくりを目指していきたい。